

RSNの活動を警察庁 の廣田保安課長が評価

RSNは全日遊連の年間2000万円の出資で運営されているが「パチンコ依存問題は業界全体の問題であり、ホール業者以外にも支援するべきではないか」という意見が設立当初から多かったことから、3年経過したことを機に他団体（メーカ―団体等）への支援要請やNPO法人化も「事業計画」として検討されたが、まだ決定ではない。

同運営委員会開催前の午前中に原田理事長、西村代表、米田義一パチンコ依存問題研究会座長らが警察庁の廣田耕一保安課長を訪ねて活動報告。廣田課長は「業界自らが顧客に対するセイフティーネットを設け、こころした取り組みをしていることは素晴らしい。ぜひこの取り組みを継続していただきたい」と述べたという。

西事務局長はRSNの活動について「警察庁への報告は年2回、以前の辻課長のときも半年間分ずつ報告している」と語った。